

医学系大学院博士課程院生への 図書館における論文執筆支援

三原 由美子

順天堂大学（本郷キャンパス 学術メディアセンター）

y-mihara@juntendo.ac.jp

第37回医学情報サービス研究大会

（岩手大会）

2022年7月16日（土） 口頭発表A O-02

アウトライン

1. 背景
2. 研究目的
3. 枠組み
4. 調査方法
5. 調査結果
6. 望まれる支援への検討
7. まとめ

1-1. 背景

きっかけ:

業務で、医学系大学院博士課程院生
(以下、博士課程院生)のレファレンスに応じる

→博士課程院生の論文執筆における課題への関心

論文執筆を支援する側の事例報告は多い

→しかし、

博士課程院生側の課題の実態を調査した事例は少ない

1-2.博士課程院生に対する講習会の事例

No	著者	大学名	提供元	概要	特色/傾向
1	Havert, Mandy L.	University of Notre Dame	図書館&ライティングセンター	学位論文執筆キャンプ	総合的な専門能力開発トレーニング/集中プログラム
2	成澤めぐみ	東京大学	図書館&出版社	出前講習会。出版社の英語論文セミナー	院生の比率が高い。図書館にマンパワーあり
3	Barron, J Patrick	東京医科大学	図書館&大鵬薬品	Making Your Career through Publishing Original Papers. Ronbun.jp.	総合的な専門能力開発トレーニング

1. Havert, Mandy L. "Building Boot Camp Success: Graduate Dissertation and Thesis Programs at the University of Notre Dame". Successful Campus Outreach for Academic Libraries : Building Community Through Collaboration. Rowman & Littlefield, 2018 p. 203-216.

2. 須賀井理香. "学術情報リテラシー教育の現状：東京大学の活動から". 平成27年度大学図書館職員短期研修. https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/2020-02/lib-02_4.pdf, (2022-07-03参照).

3. Barron, J. Patrick. Making Your Career Through Publishing Original Papers. Ronbun.jp. <https://ronbun.jp/english/chest/index.html>, (2021-12-08閉鎖).

2. 研究目的

- ・博士課程院生の論文執筆における課題の現状を明らかにする

- ・図書館講習会(以下, 講習会)を含む望ましい支援のあり方を検討

- ・調査と分析

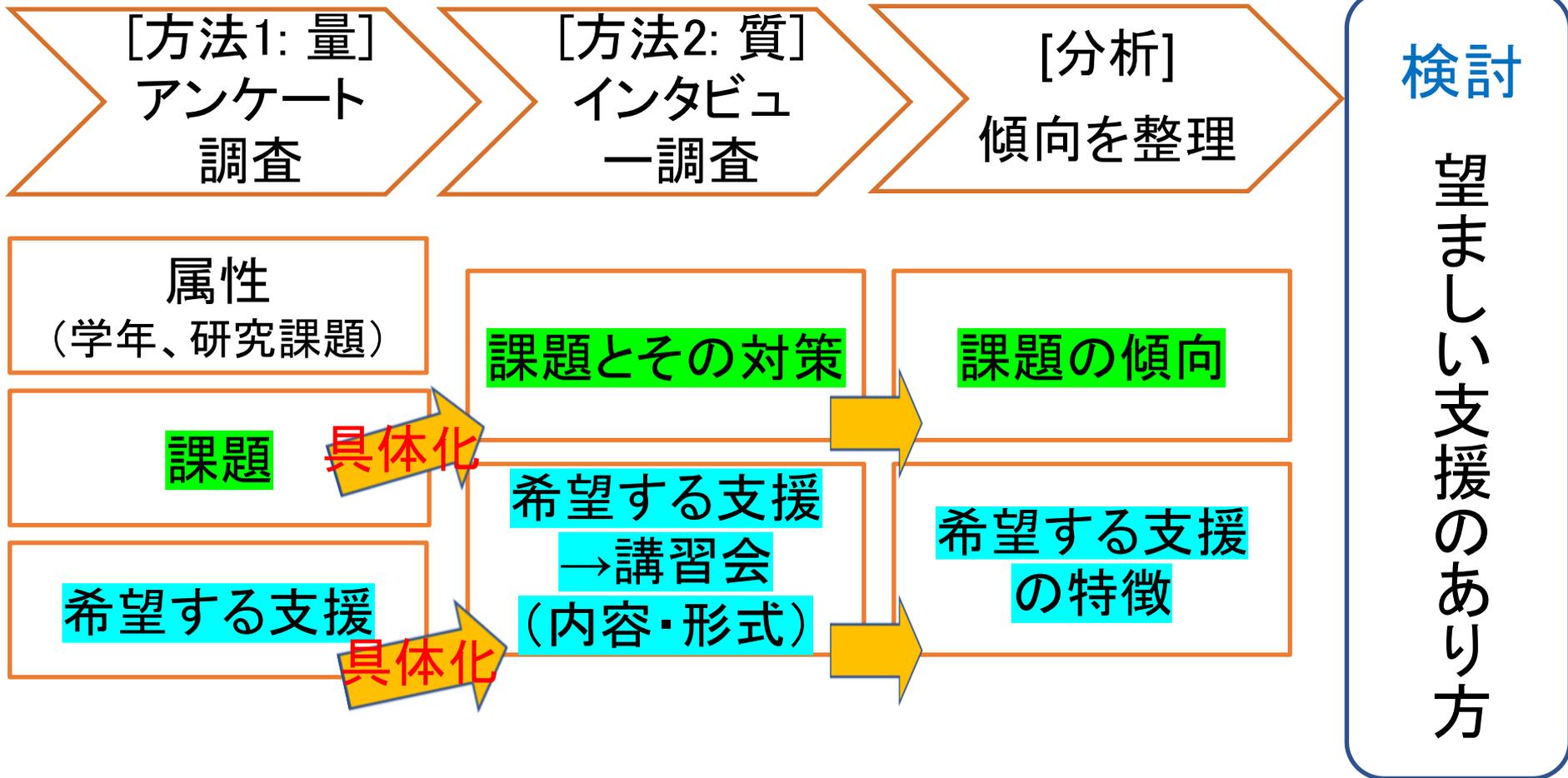
- ①博士課程院生の研究背景

- ②論文執筆における課題

- ③講習会開催を含む図書館に望まれる支援

事例: 順天堂大学

3. 研究の枠組み：混合研究法 (補完的ミックスメソッド)



4. 調査方法

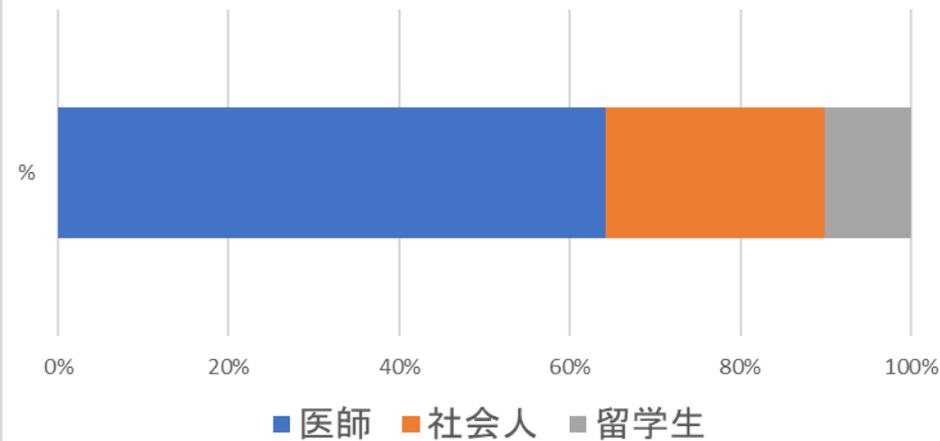
表2 調査方法

時期	[1] 2021年2月	[2] 2021年6-7月
対象	博士課程院生656名 (回答者74名)	博士課程院生10名 (学術メディアセンター運営委員会教員の複数講座院生)
調査方式	無記名のウェブアンケート	半構造化インタビュー
質問項目	属性 先行研究調査の課題 論文執筆時の課題 図書館に希望する支援	研究の背景 課題の具体例 その対策 望ましい講習会の内容・形式

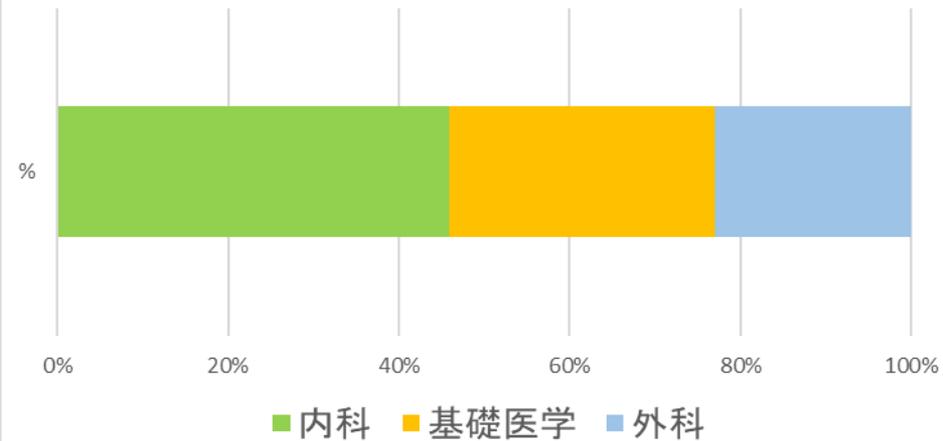
5-1. 質問紙調査の結果(属性)

・有効回答数 **74/656** (回答率11%)

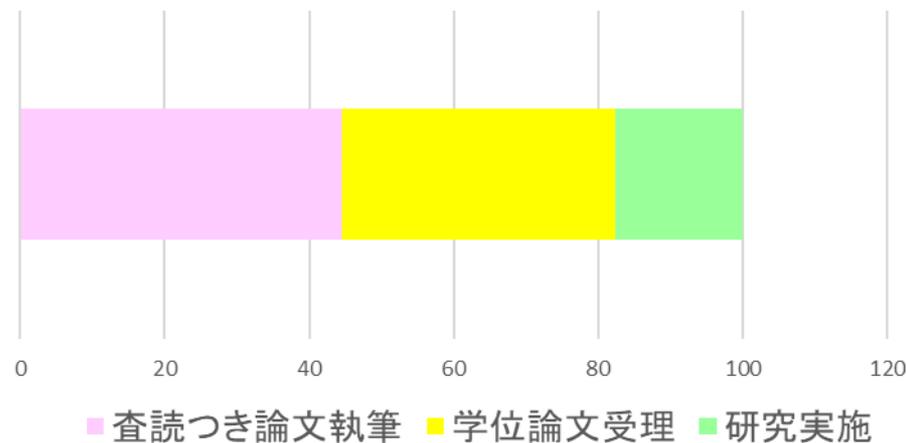
身分属性%



研究分野%



研究段階%

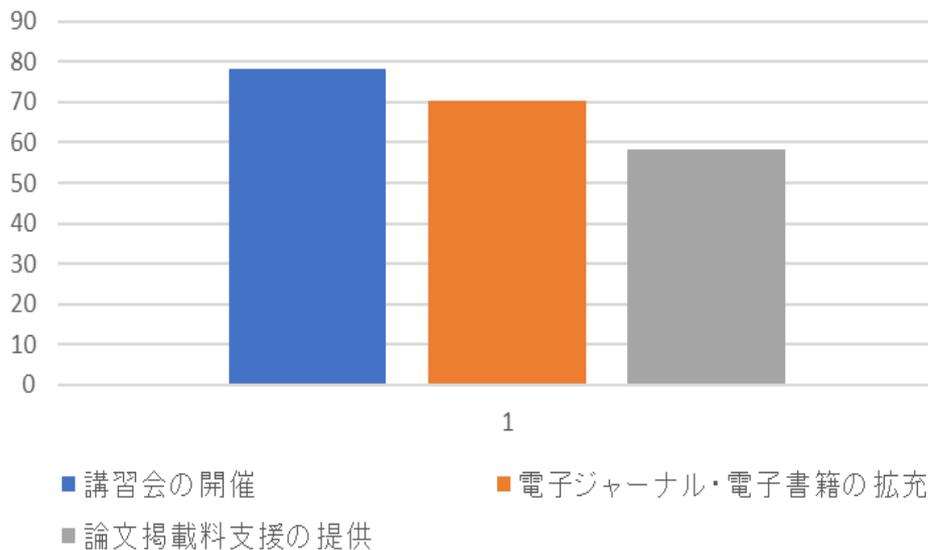


5-2. 質問紙調査結果(内容)

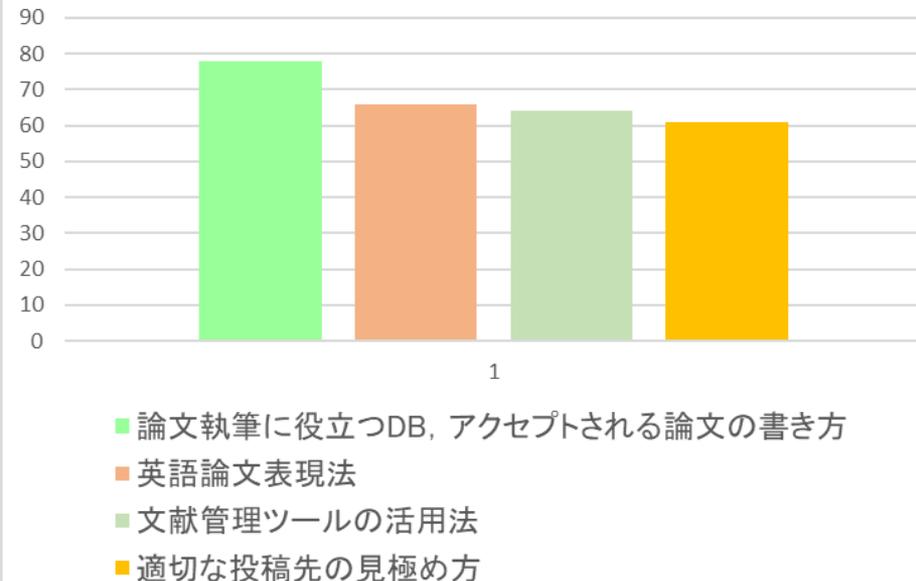
◆ 先行研究調査に困難 51%

- データベースPubMed「最もよく利用91%」かつ
「利用法を詳しく知りたい89%」

望まれる支援:複数回答可%



講習会の内容:複数回答可%



5-3. インタビュー調査結果

課題: 7つの類型

- ① 網羅的な**先行研究調査への不安**
- ② 課題を相談できる**指導教員との信頼関係**が構築できている
- ③ 指導教員との信頼関係の未構築→**独学**
- ④ **論文の構成・英語表現**という課題解決対策の体得への希求
- ⑤ **査読つき雑誌に受理**される要素を把握しつつ, 実際に論文執筆に反映させることの**難しさ**
- ⑥ **投稿先選択についての知識**が充分でない
- ⑦ **文献管理ツール**が使いこなせない

5-3. ① 先行研究調査における課題

- 【課題】
- ・網羅的な文献収集の難しさ
 - ・信頼性の高い文献入手が出来ているか不明

- 【対策】
- ・教員が指定する資料を読む
 - ・高インパクト・ファクターの雑誌から順に読む
 - ・データベースPubMedを検索時、Title & Abstract限定でキーワードを入力して絞り込む
 - ・講座の先輩や、指導教員の検索法を参考に独学

- 【博士課程のカリキュラム】
- ・文献検索の実践法はなかった
(修士課程では、選択科目で受講可能)

【多様な背景】

- ・他大学での修了者も在籍
- ・全員が学部生・修士課程・博士課程と継続して当該大学に進学していない
- ・多様な進学背景を持つため、一定のカリキュラムを履修しているわけではない
- ・カリキュラムの中で「網羅的な文献検索法」を学ぶ機会が少ない

5-3. ②③指導教員との関係性

2つに大別

②課題の相談先として第一に挙げられる
→信頼関係が構築できている

③仕事でキャンパスにほとんど通えない
→論文の書き方など, ほぼ**独学**
→講習会情報が届いていない
→(図書館支援の可能性)

5-3. ④論文執筆における課題

- ・英語で表現することの困難
- ・論文構成の困難
- ・指導教員との関係性
- ・著作権法の理解が充分でない
(質問紙調査結果と同傾向)
講習会に関わる範囲とは？

5-3. ⑤査読つき雑誌に受理される要素とは？

- ・ストーリー性があること
- ・論理構成
- ・新規性
- ・内容の正確な提示
- ・方法の確立
- ・実験の再現性
- ・タイトルの価値
- ・英語表現
- ・正しい統計手法
- ・査読者が興味を持つ書き方

5-3. ⑥投稿先の選択

【課題】

- 投稿の手順がわからない
- 指導教員の指示通りにしたが、リジェクトされた
- 見当がつかないながらも、高インパクト・ファクターの順に選択する

【選択】

- 指導教員の指示通りに行う
- 研究分野により限定された投稿先しかない
- 高インパクト・ファクターの順に出す

(質問紙調査結果とは異なる傾向)

5-3. ⑦文献管理ツール

【課題】文献管理ツールEndNoteの使い方が分からない・うまく使えていない・知りたい

【情報の周知について】

- ・(知らなかった)→上記ツールの機関契約
 - 大学院生は無料で利用可能
 - 学内他部署でマニュアルが公開

6-1. 図書館に望まれる支援

A. 研究テーマに則したデータベース検索法の講習会
開催

B. 論文を査読誌に通すのに必要なあらゆる情報の提供

B-1. 支援情報のありかをウェブサイトで集約

B-2. 支援情報を可視化して発信

6-2.検討①講習会のあり方

【講習会のあり方を随時更新】

- ・事前聞き取り調査によるテキストの作成を試行
- ・特定の検索語
- ・たどり着きたい検索方法
- ・意外と知らないデータベースの使い方
- ・異なる研究分野, 少ない図書館スタッフでも, テキストを利活用できるように試行

【出版社との関わり】

- ・出版社提供の「論文の書き方講習会」などに図書館が主体的に関わり, 自社製品の広報を含めたテキストを確認
ハブ的な役割を担う必要

6-2.検討②ウェブ上での一括支援サイト案

論文作成までの流れ(提案)					
お知らせ	<u>最新情報は<u>こちら</u></u>	④論文執筆支援	<u>文献管理ツール</u>	⑤研究成果公開	<u>著作権法</u>
①資料収集支援	<u>ILL(文献取り寄せ)</u>		<u>引用スタイル</u>		<u>オープンアクセス</u>
	<u>電子資料利用法</u>		<u>論文の書き方</u>		<u>学位論文の提出方法</u>
②図書館利用	<u>図書館利用案内</u>		<u>引用分析</u>		<u>論文掲載料支援</u>
	<u>調べもの相談</u>		<u>講習会案内</u>		<u>研究成果公開</u>
③研究遂行情報	<u>主題別リサーチ相談</u>		<u>剽窃</u>	<u>機関リポジトリ</u>	
	<u>研究資金</u>		<u>投稿先の選択</u>	⑥論文執筆体験談(準備中)	
	<u>統計作成</u>				
	<u>データ利用</u>				

学内情報をリンクでたどれるよう設定

7. まとめ①

【調査】博士課程院生の論文執筆課題，講習会開催を含む図書館に望まれる支援

【結果】課題を7つに類型化

- ①網羅的な**先行研究調査への不安**
- ②課題を相談できる**指導教員との信頼関係**が構築できている
- ③指導教員との信頼関係の未構築→**独学**
- ④**論文の構成・英語表現**という課題解決対策の体得への希求
- ⑤**査読つき雑誌に受理**される要素を把握しつつ，実際に論文執筆に反映させることの**難しさ**
- ⑥**投稿先選択**についての**知識**が充分でない
- ⑦**文献管理ツール**が使いこなせない

7. まとめ②

【図書館に望まれる支援】

1. 研究テーマに則したデータベース検索法の講習会開催

- ・ウェブサイト上でオンデマンド配信, 動画配信, PDF表示

2. 論文を査読誌に通すのに必要なあらゆる情報

- ・ウェブサイト上に, 学内の論文執筆関連情報を一括掲示

(博士課程院生の多忙な研究背景, およびCOVID-19の影響に伴い, 個々人が必要な時期に利用希望の傾向が高い)

3. 電子ジャーナル・電子書籍の拡充

本研究の限界と今後の課題

【本研究の限界】

- ・質問紙調査の回収率11%という少ない回答数
やや偏ったサンプル
- ・インタビュー調査人数(10名)の点においても、研究として限界

【今後の課題】

- ・他部署との協働体制の構築
- ・キャンパスに通えない博士課程院生を含む研究者支援のあり方

(本研究は、2022年1月に受理された慶應義塾大学大学院文学研究科
図書館・情報学専攻 修士論文を加筆修正したものです)